

令和5年度 久留米市地方創生総合戦略推進会議 《欠席委員意見要旨》

1 委員名（会議欠席委員）

委員：6名

坂井猛委員、小田まり子委員、佐藤清一郎委員、栗山扶美香委員、檜枝真知子委員、佐藤有里子委員

2 意見要旨

【協議事項1】

・第2期久留米市地方創生総合戦略の進捗状況について（令和4年度）

【協議事項2】

・第2期久留米市地方創生総合戦略の改訂について

【その他】

【協議事項1】

・第2期久留米市地方創生総合戦略の進捗状況について（令和4年度）

○佐藤清一郎委員

令和5年12月に令和4年度の評価が取りまとめられるのは、令和6年度の予算に反映できないタイミングであり、遅い印象を持つ。年度終了後、状況報告のタイミングを早める等の工夫は検討できないか。

また、令和4年度事業評価一覧の中で、「基本目標3 結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる」はB評価が多く、特に、③の子育て支援体制が充実したと感じる市民の割合については、令和3年度の77.9%から令和4年度は70.7%に低下しており、基準値（令和元年度：75%）を割り込んでいる。周辺市町と比較して子育て支援策が劣後していないか点検を行うことも必要である。また、結婚については、民間の婚活支援組織との協業も有効な対策としてご検討いただきたい。

【協議事項2】

・第2期久留米市地方創生総合戦略の改訂について

○坂井猛委員

DX、ワークライフバランスの具体化のひとつに、ワーケーションの場の創出がある。

コロナ後に職場に行くこと無く自宅で仕事をする人が増えたが、自宅でもなく職場でもないスペースが増えることは中心部の賑いを取り戻す重要な事項ではないかと思う。喫茶店、コンビニ、ファストフードでも可能だが、2、3時間以上の長時間は居づらくなる。無料または安く、長く、居ることができて、Wi-Fi や電源がとれる比較的静かな施設があればと思う。市外県外企業の社員向けに、無料でワーケーション環境や市内の食事情報、市内企業との面談の場所などを提供し、ビジネスチャンスに結び付けようとしている海外の都市もあるので、検討いただきたい。

また、久留米シティプラザの積極的な活用と目立つパフォーマンス、良い話題が次々にマスコミを通じて聞こえてくるような運営を引き続きしていただきたい。

○小田まり子委員

「デジタルの力を活用して社会課題を解決する」を追加し、デジタルの力によって地方創生の取組を加速化・進化させ、社会課題解決に取り組んでいくことを明記していることは良い（評価できる）と思う。そのうえで、

- ・行政手続きの効率化も進めていただきたい。
- ・DXによる働き方改革において、女性へのリカレント教育も必要ではないか。
- ・教育ICT環境の充実については、大学が協力できることもあるように思う。
- ・政策パッケージ（P12）にあるデジタル技術を活用した生産性向上などの成長支援、スマート農業の促進などは、官学連携での最新技術に関する教育が重要だと思う。

○佐藤清一郎委員

久留米市が「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金（重点対策加速化事業）」に採択されたことにより、今後、同事業の実施が地域の脱炭素化の起点となっていくことが期待される。本総合戦略においても環境、特に脱炭素化に関する取り組みについて盛り込むことにより、地元事業者等が脱炭素に取り組む機運を作っていくことが重要であると考えられる。

【その他】

○小田まり子委員

DX化に遅れており、これからDX化以前のデジタル化を進めなければならない中小企業もあるのではないかと思う。スマート農業などでは、DX化のための先端設備の導入の支援以上に、人的な技術支援が必要ではないか。本学はAI教育に力を入れているので、社会人のリカレント教育（AI教育やICT教育）や学生技術者の派遣（インターンシップ・社会人と学生のコーオプ教育）において、本学は協力を惜しまない。

例えば、DX化を図るために、先端技術を持つ大学院生（大学生）を有料で派遣するような仕組みができれば、中小企業のDX化の支援ができると同時に、学生の経済的支援にもつながり、久留米に愛着を持った若者（学生）が増えると考えられる。学生がベンチャー企業を創出するきっかけになるかもしれないし、久留米市に魅力ある企業が増えれ

ば、久留米での就職を希望する学生も増えると思うので、良い循環が生まれる。久留米市にとっても、企業にとっても、大学にとっても利益のある、産学官連携の仕組みが創れることを願っている。

○栗山扶美香委員

これから、人口減少や地球温暖化など、大変な時代になっていくため、人口減少社会を前提としたコンパクトシティの発想が大切かと思う。

その他、スポーツ環境の充実や、学童保育所の充実に力をいれて頂きたい。

以 上